

宿願の初出場初V

「私には縁がないのかな、と」

《九州女子シニア選手権》

大会最少スコアの1アンダー 71

53歳の若松 和代（大隅）



ついにたどり着いた。鹿児島県内では数々のタイトルを獲得し、1996年の九州女子選手権では3位（2位はプロゴルファーの大山志保）、2016年の九州女子ミッドアマでは2位にもなった。さらに、九州女子シニア出場資格を手にした2019年には所属ゴルフ場

のミスで大会不参加に。この頃は九州女子ミッドアマと九州女子シニアが同日同会場で開催され、若松自身は女子シニアを希望したにもかかわらず、コースサイドのエントリーミスで女子ミッドアマに出ることになった。この時、若松は 80 で回り 4 位タイに入るのだが、女子シニアの優勝スコアは 82。女子シニアに出場していれば、このスコアをマークしたかどうかは分からないが、当時は話題に上った。

「まさか優勝するとは。私には（九州というタイトルは）縁がないと思っていました。去年と一昨年はコロナで出られなかったし…。ゴルフをしていて、神様がプレゼントをしてくれました」。本来なら 4 回目の出場でもおかしくないのに、53 歳での初出場初優勝に若松は少し照れてみせた。

戦いは 2 位に 4 打差をつける圧勝だった。6 m 前後の強い風が吹き、雷雨の影響で 1 時間 33 分の中断もあったが、3 バーディー、2 ボギーの大会最少スコアとなる 71。中断後は 14 番から再スタートし、15 番から 3 連続バーディーと悪コンディションをものともしなかった。「雨は好き。1 人で黙々とやれるから。条件が悪いと、やる気のある人が勝つと思う」と精神的なタフさの勝利でもあった。

ゴルフは鹿児島県鹿屋市で練習場（平和ゴルフ）を運営する父・寛英さん（80）の影響で鹿児島純心女子短期大学を卒業後の 20 歳から本格的に始める。寛英さんは鹿児島県代表として国体や都道府県対抗にも出場したほどの実力者。「父が師匠です。ゴルフの環境を与えてくれた父には感謝しています。少しは親孝行ができたかな」とほほ笑んだ。

10 月の日本女子シニアは初めての舞台。「九州チャンピオンという思いではなく、初心に戻って、ひたむきに 1 打 1 打を大事に回りたい」。南九州を中心として九州ゴルフ連盟の査定委員を務める若松が着実なプレーでジャパンに臨む。

《2位の中山和代(別府の森)》

○…最終組の若松がホールアウトするまでは 3 オーバー 75 の中山和代（56 歳、別府の森）がクラブハウスリーダーだった。2 バーディー、1 ボギー、2 ダブルボギー。「こんな強い風は初めての経験。キャディーさんに感謝しています。アドバイスが的確でした」。今回は 2 回目の出場。交通事故に遭い、10 年間のブランクがあったが、52 歳の時に再びクラブを握った。今でも疲れが出たりすると、右半身に痛みが走るそうだが、「ショットも安定してきたし」と笑顔を見せていた。

【志摩シーサイドカンツリークラブ】



新クラブハウス。10月にオープンする予定